



**2018年12月期 第3四半期**  
**決算説明会資料**

**荏原 (6361)**

2018年11月13日

Looking ahead,  
going beyond expectations  
*Ahead*  *Beyond*

株式会社 荏原製作所

## 1. 決算概要

### 2018年12月期第3四半期決算 サマリー



(単位：億円)

	<参考値> 2017年12月期* 第3四半期	2018年12月期 第3四半期	増減
受注高	3,722	4,431	+ 709
売上高	3,679	3,680	+ 0
営業利益	276 (7.5%)	204 (5.6%)	△ 72
経常利益	269 (7.3%)	199 (5.4%)	△ 69
親会社株主に帰属する 四半期純利益	193 (5.3%)	112 (3.0%)	△ 81

為替レート  
(平均)

1ドル = 112.4円

1ドル = 111.4円

( )内は売上高に対する比率

※本資料上で「<参考値>2017年12月期」として示す数値は2018年12月期の業績を同一期間と比較するために2017年12月期（変則9か月決算）の実績を2017年1月から12月に組み替えた数値（非監査）です。また、「<参考値>2017年12月期第3四半期」の期間は2017年1月から9月です。  
 ※※本資料において「1Q」は3か月累計期間、「2Q」は6か月累計期間、「3Q」は9か月累計期間、「通期」は12か月累計期間を示しています。  
 またこのページ以降、特別な記載がない限り、数値の単位を『億円』で表示しています。

## 2018年12月期第3四半期決算 サマリー：

### <主なポイント（対前年度同一期間比）>

- 受注高：709億円増加
- 売上高：前年度同一期間並み
- 営業利益：72億円減益
- 親会社株主に帰属する四半期純利益：

国内工場の閉鎖に関わる減損費用及び訴訟損失引当金を計上

1. 決算概要

2018年12月期第3四半期決算 事業セグメント別



	受注高			売上高			営業利益		
	<参考値> 2017年 12月期 第3四半期	2018年 12月期 第3四半期	増減	<参考値> 2017年 12月期 第3四半期	2018年 12月期 第3四半期	増減	<参考値> 2017年 12月期 第3四半期	2018年 12月期 第3四半期	増減
風水力事業	2,268	2,442	+ 173	2,175	2,250	+ 75	100 (4.6%)	33 (1.5%)	△ 66
環境プラント 事業	498	933	+ 434	499	435	△ 63	37 (7.6%)	34 (7.9%)	△ 3
精密・電子 事業	943	1,043	+ 100	992	981	△ 10	135 (13.7%)	134 (13.7%)	△ 1
その他 調整	12	12	+ 0	12	12	+ 0	2 (21.0%)	2 (18.4%)	△ 0
合計	3,722	4,431	+ 709	3,679	3,680	+ 0	276 (7.5%)	204 (5.6%)	△ 72

( )内は売上高に対する比率

2018年12月期第3四半期決算 事業セグメント別：

<主なポイント（対前年度同一期間比）>

- 受注高：3事業ともに増加
- 売上高：風水力事業が前年度同一期間並みまで回復
- 営業利益：風水力事業の利益水準は弱い

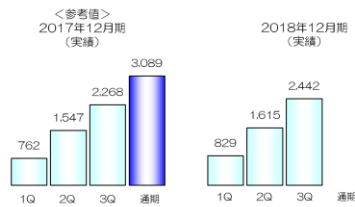
# 1. 決算概要

## 2018年12月期第3四半期決算 事業セグメント別



### 風水力事業

#### 受注高



#### 【受注高】

✓ コンプレッサ・タービン事業で製品を中心に増加

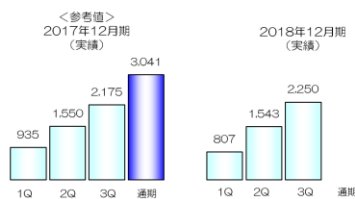
#### 【売上高】

✓ コンプレッサ・タービン事業、ポンプ事業で増加

✓ サービス&サポート (S&S) の売上高が減少

S&S比率	<参考値> 2017年12月期3Q	2018年12月期3Q
風水力全体	36.4%	33.1%
ポンプ事業	25.5%	24.5%
コンプレッサ・タービン事業	59.8%	50.2%

#### 売上高



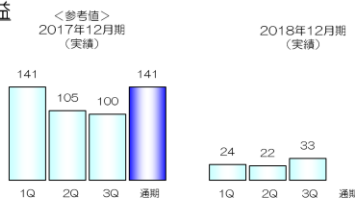
#### 【営業利益】

✓ S&S売上の構成比が減少 (-)

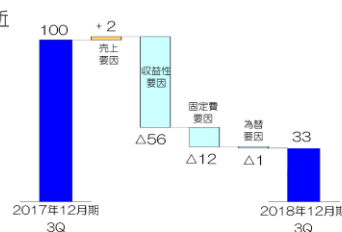
✓ コンプレッサ・タービン事業で低採算案件の受注が一部あり、損失引当金が増加 (-)

✓ 人件費を中心に固定費が増加 (-)

#### 営業利益



#### 増減要因分析



## 2018年12月期第3四半期決算 事業セグメント別（風水力事業）：

以下、前年度同一期間に対する増減要因

### <受注高>

風水力事業：173億円増加

#### ■ コンプレッサ・タービン事業：221億円増加

- 製品を中心に増加。石油・ガス市場のダウンストリームにおける顧客の設備投資が中国・インドを中心に堅調に回復、北米でも徐々に活発化

#### ■ ポンプ事業：63億円減少

- 石油・ガス市場向けのカスタムポンプはコンプレッサ・タービンと比べると製造リードタイムが短いので顧客からの発注はまだ弱い
- 国内公共向けのカスタムポンプは減少。国内の社会インフラの更新・補修に対する投資の進捗が遅い

### <売上高>

風水力事業：75億円増増収

#### ■ コンプレッサ・タービン事業：55億円増収

- 製品を中心に増加。S&S比率は減少したが7~9月の3か月間でみると売上額、比率ともに減少幅は縮まっている

#### ■ ポンプ事業：38億円増収

- 標準ポンプは引続き堅調。カスタムポンプも国内公共向けが前年の好調な受注状況を受けて増加

### <営業利益>

風水力事業：66億円減益

- S&Sの売上比率がコンプレッサ・タービン事業を中心に風水力事業全体で低下
- コンプレッサ・タービン事業は、競合他社との厳しい価格競争の中で低採算案件の受注が一部あり、損失引当金が増加
- 海外のポンプ事業を中心に人件費が増加

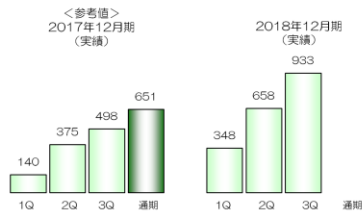
# 1. 決算概要

## 2018年12月期第3四半期決算 事業セグメント別



### 環境プラント事業

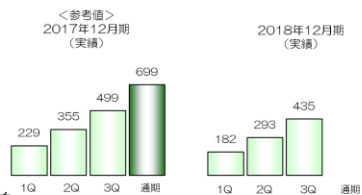
#### 受注高



#### 【受注高】

✓ 高い水準で着地

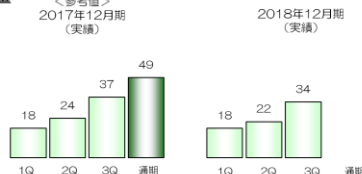
#### 売上高



#### 【売上高】

✓ EPCを中心に売上が減少

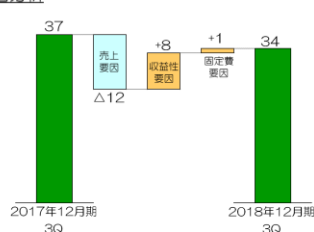
#### 営業利益



#### 【営業利益】

- ✓ 減収の影響 (-)
- ✓ オペレーション&メンテナンスの構成比が増加 (+)
- ✓ 中国の製造子会社において一部事業撤退に伴う損失を計上 (-)

#### 増減要因分析



2018年12月期第3四半期決算 事業セグメント別（環境プラント事業）：

以下、前年度同一期間に対する増減要因

#### <受注高>

➤ 受注高は引き続き高い水準

- 第2四半期までに、DBO案件、バイオマスの民需案件をそれぞれ1件、長期包括案件、延命化案件をそれぞれ複数受注
- 第3四半期は長期包括案件を1件、延命化案件を複数受注

#### <売上高>

➤ 手持ちのEPC案件が減少

#### <営業利益>

- 減収の影響
- 売上構成比でO&Mの比率が上昇し、収益性が改善
- 中国の製造子会社で一部事業撤退に伴う損失を計上

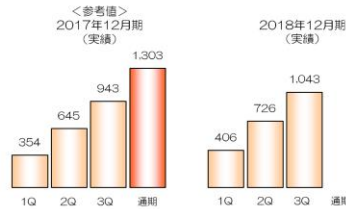
# 1. 決算概要

## 2018年12月期第3四半期決算 事業セグメント別



### 精密・電子事業

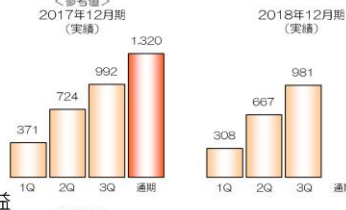
#### 受注高



#### 【受注高】

- ✓ 半導体市場の設備投資はメモリ向けを中心に堅調
- ✓ CMP事業、コンポーネント事業共に増加

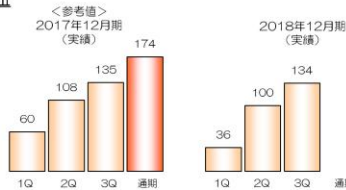
#### 売上高



#### 【売上高】

- ✓ コンポーネント事業で増加
- ✓ CMP事業は減少したが、水準としては高いレベル

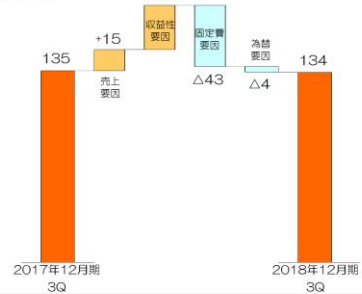
#### 営業利益



#### 【営業利益】

- ✓ 人件費・研究開発費を中心に固定費が増加 (-)

#### 増減要因分析



## 2018年12月期第3四半期決算 事業セグメント別（精密・電子事業）：

以下、前年度同一期間に対する増減要因

### <受注高>

- 半導体市場の設備投資はメモリ向けを中心に堅調
- CMP事業、コンポーネント事業共に増加

### <売上高>

- コンポーネント事業は受注増に伴う増収
- CMP事業は減収。前年度同一期間の売上が好調だったことによるもので売上水準は高い

### <営業利益>

- ほぼ横ばい
- 人件費や研究開発費を中心に固定費の増加
- CMP事業で顧客の評価を含む開発案件コストが第2四半期から期末へ期ずれしたことによる収益性の改善

2. 今期の見通しと  
経営戦略

2018年12月期の業績見通し



	<参考値> 2017年 12月期	2018年12月期		増減	
	実績	見通し(8月)	見通し(最新)	対見通し(8月)比	対前期比
受注高	5,060	5,550	5,710	+ 160	+ 649
売上高	5,078	5,050	5,080	+ 30	+ 1
営業利益	366 (7.2%)	370 (7.3%)	320 (6.3%)	△ 50	△ 46
経常利益	354 (7.0%)	360 (7.1%)	310 (6.1%)	△ 50	△ 44
親会社株主に 帰属する 当期純利益	227 (4.5%)	220 (4.4%)	170 (3.3%)	△ 50	△ 57

為替レート      <参考値>      ( )内は売上高に対する比率  
 1ドル = 112円      1ドル = 110円      1ドル = 110円  
 (平均)      (想定)      (想定)

2018年12月期の業績見通し：

第3四半期の業績結果および外部環境の変化を踏まえ、8月に修正した通期連結業績見通しを修正

2. 今期の見通しと  
経営戦略

2018年12月期の業績見通し



		<参考値>	2018年12月期		増減	
		2017年12月期	見通し(8月)	見通し(最新)	対見通し(8月)比	対前期比
		実績				
風水力事業	受注高	3,089	3,240	3,290	+ 50	+ 200
	売上高	3,041	3,140	3,160	+ 20	+ 118
	営業利益	141 (4.7%)	135 (4.3%)	100 (3.2%)	△ 35	△ 41
環境プラント 事業	受注高	651	900	1,000	+ 100	+ 348
	売上高	699	600	600	-	△ 99
	営業利益	49 (7.1%)	60 (10.0%)	50 (8.3%)	△ 10	+ 0
精密・電子 事業	受注高	1,303	1,400	1,400	-	+ 96
	売上高	1,320	1,300	1,300	-	△ 20
	営業利益	174 (13.2%)	170 (13.1%)	170 (13.1%)	-	△ 4
その他 調整	受注高	16	10	20	+ 10	+ 3
	売上高	16	10	20	+ 10	+ 3
	営業利益	1 (8.0%)	5 (50.0%)	0 (0.0%)	△ 5	△ 1
合計	受注高	5,060	5,550	5,710	+ 160	+ 649
	売上高	5,078	5,050	5,080	+ 30	+ 1
	営業利益	366 (7.2%)	370 (7.3%)	320 (6.3%)	△ 50	△ 46

( ) 内は売上高に対する比率



## 2. 今期の見通しと 経営戦略

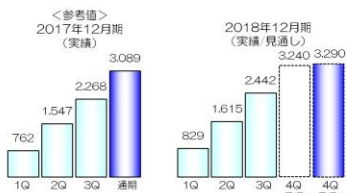
### 2018年12月期決算見通し 事業セグメント別



#### 風水力事業

<見通し(8月)からの変更> 受注高・売上高・営業利益

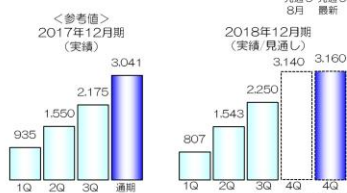
##### 受注高



##### 【受注高・売上高】

- ✓ コンプレッサ・タービン事業の顧客の設備投資は順調に回復しており、計画を上方修正。
- ✓ ポンプ事業はカスタムポンプでS&S案件の期ずれにより計画を下方修正

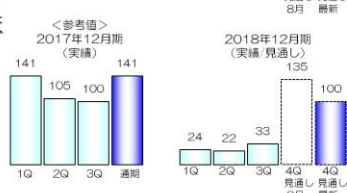
##### 売上高



##### 【営業利益】

- ✓ カスタムポンプのS&Sで売上の期ずれと収益性の悪化により計画を下方修正
- ✓ コンプレッサ・タービン事業の一部低採算案件受注に伴う損失引当金の増加により計画を下方修正
- ✓ 冷熱事業で収益性が悪化し計画を下方修正

##### 営業利益



2018年12月期の業績見通し 事業セグメント別（風水力事業）：

- 受注高：3,290億円（対8月公表業績見通し増減+50億円）
- 売上高：3,160億円（同+20億円）
- 営業利益：100億円（同△35億円）

以下、8月公表業績見通しに対する増減要因

#### <受注高>

- ポンプ事業：50億円減少、コンプレッサ・タービン事業：100億円増加
  - ポンプ事業におけるS&S案件の期ずれ
  - コンプレッサ・タービン事業のメイン市場である石油・ガス市場のダウンストリームで顧客の設備投資が回復傾向にある

#### <売上高>

- ポンプ事業：50億円減収、コンプレッサタービン：70億円増収
  - ポンプ事業の受注減に伴う減収
  - コンプレッサ・タービン事業では、製品販売において受注残が順調に積み上がっていることや、S&Sでも需要の回復が見られるため

#### <営業利益>

- 風水力事業：35億円減益
  - カスタムポンプのS&Sにおける売上の期ずれ
  - カスタムポンプの不具合対応に伴う追加原価の発生
  - コンプレッサ・タービン事業で一部低採算案件を受注したことによる損失引当金の増加
  - 冷熱事業における追加原価の発生

## 2. 今期の見通しと 経営戦略

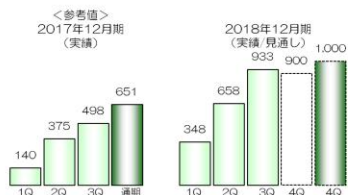
### 2018年12月期決算見通し 事業セグメント別



#### 環境プラント事業

<見通し(8月)からの変更> 受注高・営業利益

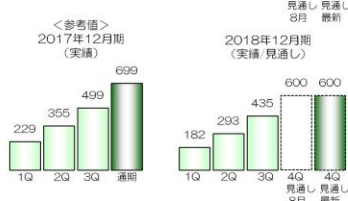
##### 受注高



##### 【受注高】

- ✓ 好調な受注の進捗を受け、計画を上方修正

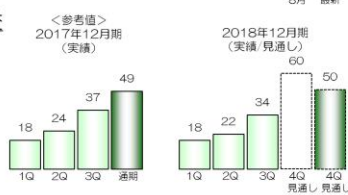
##### 売上高



##### 【売上高】

- ✓ 計画通り着地する見込み

##### 営業利益



##### 【営業利益】

- ✓ 主に中国の製造子会社における一部事業撤退に伴う損失の計上により、計画を下方修正

2018年12月期の業績見通し 事業セグメント別（環境プラント事業）：

- 受注高：1,000億円（対8月公表業績見通し増減+100億円）
- 売上高：600億円
- 営業利益：50億円（同△10億円）

以下、8月公表業績見通しに対する増減要因

#### <受注高>

- 好調な受注状況を踏まえ、100億円引き上げ

#### <売上高>

- 今期受注したEPCや長期包括案件は来期以降の損益に貢献してくるものがほとんどであるため、着地見通しは変更無し

#### <営業利益>

- 中国の製造子会社における一部事業撤退に伴う損失の計上などにより10億円引き下げ

## 2. 今期の見通しと経営戦略

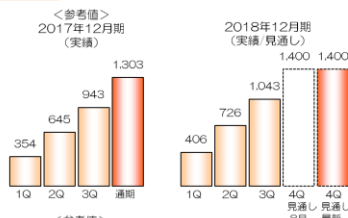
### 2018年12月期決算見通し 事業セグメント別



#### 精密・電子事業

<見通し(8月)からの変更> 受注高・売上高 (セグメント内の内訳)

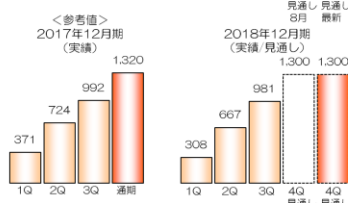
#### 受注高



#### 【受注高・売上高】

- ✓ 半導体市場の設備投資はメモリが牽引し引き続き堅調
- ✓ 事業毎には顧客投資動向に応じて計画を修正

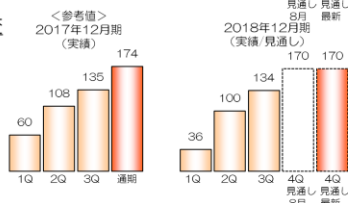
#### 売上高



#### 【営業利益】

- ✓ 前期からの研究開発費の期ずれもあり固定費は増加の見込み
- ✓ 顧客での評価を含む開発案件は期末に集中

#### 営業利益



2018年12月期の業績見通し 事業セグメント別 (精密・電子事業) :

- 受注高 : 1,400億円
- 売上高 : 1,300億円
- 営業利益 : 170億円

<受注高・売上高・営業利益>

- 半導体市場における設備投資はメモリが牽引し、引き続き堅調に推移
- 顧客の設備投資動向に応じて受注高および売上高の計画の内訳を一部修正しているものの、精密・電子事業全体では計画どおり着地する見込み

《補足資料》

事業別 受注高の内訳



受注高

	通期					第3四半期		
	〈参考値〉 2017年 12月期 実績	2018年 12月期			増減	〈参考値〉 2017年 12月期 実績	2018年 12月期 実績	増減
		見通し(8月)	見通し(最新)	増減				
風水力事業								
ポンプ	1,742	1,780	1,730	△ 50	△ 12	1,324	1,261	△ 63
コンプレッサ・タービン	833	950	1,050	+ 100	+ 216	555	777	+ 221
冷熱	345	370	370	-	+ 24	269	293	+ 23
その他	167	140	140	-	△ 27	117	110	△ 7
風水力事業 計	3,089	3,240	3,290	+ 50	+ 200	2,268	2,442	+ 173
環境プラント事業								
環境プラント	651	900	1,000	+ 100	+ 348	498	933	+ 434
環境プラント事業 計	651	900	1,000	+ 100	+ 348	498	933	+ 434
精密・電子事業								
コンポーネント	598	640	630	△ 10	+ 31	446	458	+ 12
CMP装置	627	710	710	-	+ 82	440	543	+ 102
その他	77	50	60	+ 10	△ 17	56	41	△ 14
精密・電子事業 計	1,303	1,400	1,400	-	+ 96	943	1,043	+ 100
その他	16	10	20	+ 10	+ 3	12	12	+ 0
その他 計	16	10	20	+ 10	+ 3	12	12	+ 0
合計	5,060	5,550	5,710	+ 160	+ 649	3,722	4,431	+ 709

※第1四半期連結会計期間より、従来「ポンプ事業」に含めていたクライオポンプ（LNG（液化天然ガス）移送用ポンプ）事業を、「コンプレッサ・タービン事業」に含めています。また、前年度同一期間の受注高及び売上高についても、変更後の区分に組替えています。

《補足資料》

事業別 売上高の内訳



売上高

	通 期					第3四半期		
	〈参考値〉 2017年 12月期 実績	2018年 12月期			増減	〈参考値〉 2017年 12月期 実績	2018年 12月期 実績	増減
		見通し(8月)	見通し(最新)	増減				
風水力事業								
ポンプ	1,685	1,780	1,730	△ 50	+ 44	1,247	1,285	+ 38
コンプレッサ・タービン	838	850	920	+ 70	+ 81	572	628	+ 55
冷熱	358	370	370	-	+ 11	238	240	+ 2
その他	159	140	140	-	△ 19	117	95	△ 21
風水力事業 計	3,041	3,140	3,160	+ 20	+ 118	2,175	2,250	+ 75
環境プラント事業								
環境プラント	699	600	600	-	△ 99	499	435	△ 63
環境プラント事業 計	699	600	600	-	△ 99	499	435	△ 63
精密・電子事業								
コンポーネント	570	580	580	-	+ 9	420	447	+ 27
CMP装置	685	670	660	△ 10	△ 25	525	486	△ 38
その他	64	50	60	+ 10	△ 4	46	47	+ 0
精密・電子事業 計	1,320	1,300	1,300	-	△ 20	992	981	△ 10
その他	16	10	20	+ 10	+ 3	12	12	+ 0
その他 計	16	10	20	+ 10	+ 3	12	12	+ 0
合計	5,078	5,050	5,080	+ 30	+ 1	3,679	3,680	+ 0

※第1四半期連結会計期間より、従来「ポンプ事業」に含めていたクライオポンプ（LNG（液化天然ガス）移送用ポンプ）事業を、「コンプレッサ・タービン事業」に含めています。また、前年度同一期間の受注高及び売上高についても、変更後の区分に組替えています。

### 3. 自己株式の取得

#### 自己株式取得の概要



- 資本効率の向上を目的として50億円/2百万株を上限に自己株式を取得予定

【取得に係る事項の内容】

取得対象株式の種類	当社普通株式
取得し得る株式の総数	2,000,000株（上限） （発行済株式総数（自己株式を除く）に対する割合1.97%）
株式の取得価額の総額	50億円（上限）
取得期間	平成30年11月14日～平成30年12月20日

#### E-Plan2019期間におけるROIC向上に向けた取り組み

売上高営業利益率の改善

運転資本効率の向上

資本効率の向上

- 機動的な自己株式の取得

自己株式取得の概要：

<自己株式の取得を行う理由>

- 自己株式の取得は、E-Plan2019で掲げたROIC向上に向けた取り組みの一つ
- キャッシュの積み上がりや成長投資の進捗具合を勘案し、機動的な財務施策として行う
- キャッシュアロケーションの方針に従い、今後もキャッシュの使い道は成長投資を第一優先とする

本資料に記載されている業績予想・計画ならびに将来予測は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び、将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定、を前提としています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。